

＜総括＞	出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間 120分
大問一 本文はやや難化。設問数には変化なし。記述量はやや減少。 大問二 本文はやや易化。記述量は大幅増。問4は新傾向。		

＜本文分析＞

大問番号	一	二
出典(作者)	『争わない社会 「開かれた依存関係」をつくる』(佐藤仁)	『だからフェイクにだまされる——進化心理学から読み解く』(石川幹人)
頻出度合・的中等	なし	なし
分量前年比較	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2640字→約3940字	分量(減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約2970字→約3000字
難易前年比較	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)	難易(易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

＜大問分析＞

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
一	評論	問1	論述	標準	理由を問う問題。
		問2	客観	やや易	空所補充問題。
		問3	論述	標準	具体、抽象、どちらで書くか迷う。
		問4	論述	標準	傍線部を説明する問題。
		問5	論述	やや易	歴史の見方を問う問題。
		問6	論述	やや難	「論旨」という条件を踏まえる問題。
二	評論	問1	論述	標準	「具体的」という条件に注意する。
		問2	論述	やや易	「前提条件」を問う問題。
		問3	論述	標準	「具体的」という条件に注意する。
		問4	論述	やや難	「論旨」を踏まえて推論する問題。新傾向。
		問5	論述	標準	「理由」を問う問題。
		問6	論述	やや難	「仮の演技」という表現に注意する問題。

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

＜学習対策＞

<p>日頃から、色々な文章になじんでおく。 書き取りは出ないが、読解の基礎なので対策を講じておこう。 長大な論述に慣れておく。</p>
---

国語(古文) 九州大学 教育・法・経済(経済・経営)学部 2/3

<総括>

出題数 現代文2題・古文1題・漢文1題

試験時間 120分

三は、平安時代の歌論「俊頼髓脳」からの出題で、本文は読み取りやすいが、設問には答えにくいものがあった。

<本文分析>

大問番号	三
出典 (作者)	俊頼髓脳(源俊頼)
頻出度合 ・的中等	頻出
分量 前年比較	分量 (減少)・やや減少・変化なし・やや増加・増加) 約1230字→約520字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化)・変化なし・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
三	歌論	問1	記述	標準	現代語訳
		問2	記述	標準	文法問題
		問3	記述	やや難	和歌の説明
		問4	記述	やや難	指示語の説明
		問5	記述	標準	内容説明問題
		問6	記述	標準	内容説明問題
		問7	客観	標準	文学史問題

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

文法や単語といった基本の力をしっかりと身に付け、それを踏まえた解釈が出来るように学習を重ね、その上で、設問にきちんと対応できるような記述力を身に付けること。また、さまざまなジャンルの問題にあたるようにしておこう。

<総括>

出題数	現代文2題・古文1題・漢文1題	試験時間	120分
-----	-----------------	------	------

歴史書と詩話を組み合わせた出題。詩話の出題は学部共通問題になってから初めてである。  
文学史は出題されなかった。

<本文分析>

大問番号	四
出典 (作者)	『後漢書』百十「文苑列伝」上(南朝宋・范曄)・『五雜俎』(明・謝肇淛)
頻出度合 ・的中等	なし
分量 前年比較	分量(減少・ <b>やや減少</b> ・変化なし・やや増加・増加) 229字→219字
難易 前年比較	難易(易化・やや易化・ <b>変化なし</b> ・やや難化・難化)

<大問分析>

大問	ジャンル	設問	設問形式	難易度	コメント(設問内容・答案作成上のポイントなど)
四	漢文	問1	記述	標準	「私」「対」「俄」の読み方。 弁解内容を20字以内で説明。 書き下し文に改める問題。 返り点をつける問題。 状況に対応する一句をそれぞれ抜き出す問題。
		問2	記述	標準	
		問3	記述	標準	
		問4	記述	易	
		問5	記述	やや難	

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

- ・さまざまなジャンルの漢文にふれておこう。
- ・重要語句や構文をマスターし、書き下し文に改める問題に対応できるようにしておこう。
- ・説明問題に十分対応できるように、正確な読解力と答案作成力を養っておこう。
- ・文学史・思想史に関する基礎知識を養っておこう。